

経営比較分析表（令和6年度決算）

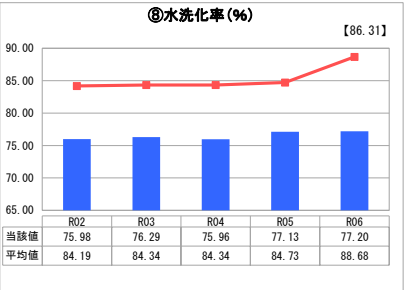
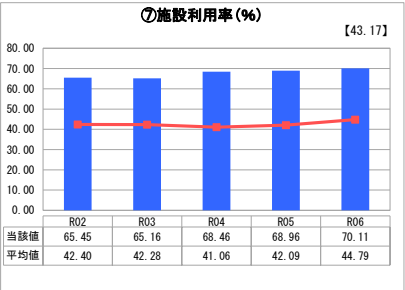
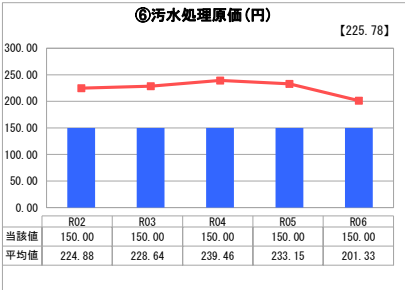
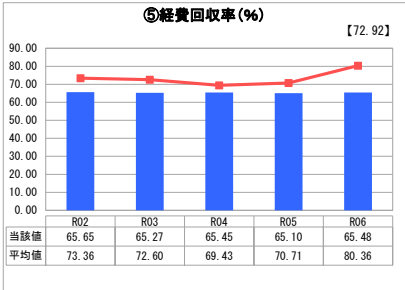
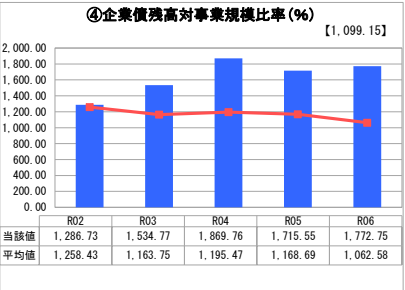
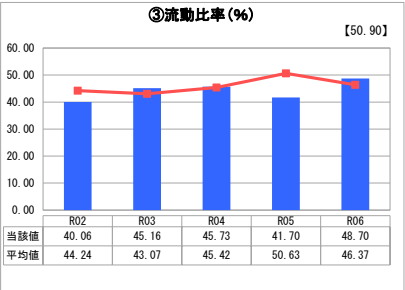
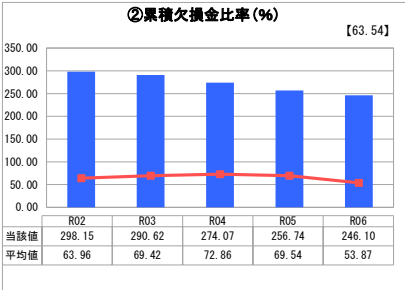
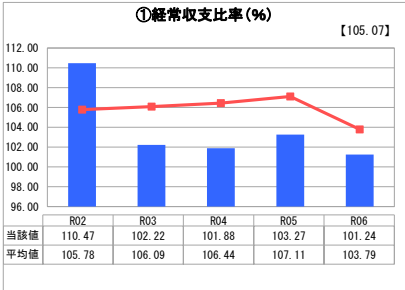
群馬県 渋川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	47.63	17.49	100.00	2,013

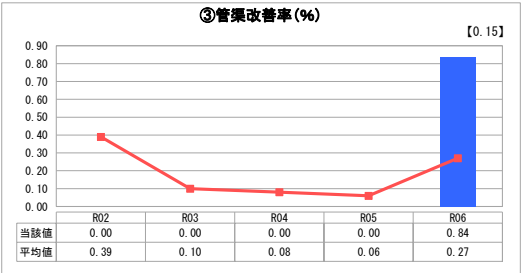
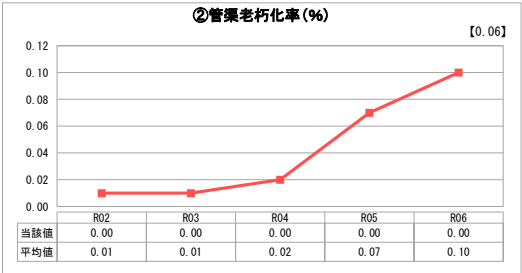
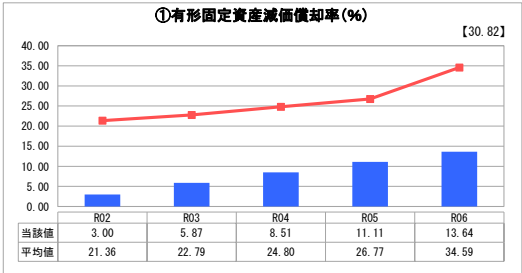
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
72,090	240.27	300.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,553	5.37	2,337.62

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
経常収支比率は100%を上回っているが、営業損失が発生していることから、一般会計繰入金に頼った経営となっている。
施設整備を推進しており、使用料収入は微増となっている。令和7年度に使用料改定を行ったが、今後も経営改善に向けた取組が必要である。
②累積欠損金比率
洗浄用への移行に係る資産整理により欠損金が生じている。現在、施設整備を推進しているため、将来には改善が見込まれる。
③流動比率
100%を下回ってはいるが、流動負債には施設整備や建設改良費等にあつた企業債等が含まれているため、今後、使用料による回収が見込まれる。
④企業債残高対事業規模比率
類似団体平均値を上回っている。
施設整備を推進しているため、継続して借入を行っているが、残高は減少傾向にある。
⑤経費回収率
類似団体平均値を下回っている。
施設整備を推進していることから、接続件数は増加しており、有収水量増となっている。使用料収入は僅かに増加しているが、一般会計繰入金に依存している。
⑥汚水処理原価
類似団体平均値を下回っている。
年間有収水量の増加に伴い維持管理費の増加が予想されるため、今後も同程度での推移が予想される。
⑦施設利用率
類似団体平均値を上回っている。
これは、施設整備を推進しているためであり、年間有収水量が増加傾向となってきた。今後、施設利用率は増加することが見込まれる。
⑧水洗化率
類似団体平均値を下回っているが、施設整備を推進していることから、現在水洗便所設置人口は増加、現在処理区域内人口も増加しており、今後も上昇が予想される。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値を下回ってはいるが、計画的な更新が必要となる。
②管渠老朽化率
老朽化を示す指標は0.00%であるが、計画的な更新が必要となる。
③管渠改善率
類似団体平均値を上回っている。最古施設は平成6年度供用開始であり更新時期とはなっていないが、今後も更なる使用料改定や経費削減等が必要な時期となっている。

全体総括

平成3年度に事業着手し、平成6年度に供用開始した事業で、旧市地域（渋川地区）において新規管路布設を推進している事業である。
最古施設が平成6年度供用開始であり、更新時期とはなっていないが、維持管理費削減や更新計画の策定に着手する必要がある。
下水道使用料では維持管理費が随っていないことから、令和7年度に使用料改定を行ったが、今後も更なる使用料改定や経費削減等が必要な時期となっている。
少子高齢化、人口減少、高齢単身世帯の増加により、区域見直し以外の接続数の増加は見込まないことから、新興住宅地区などの区域見直しが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。